

研究評価シンポジウム

COMON とは何か

多様性と持続可能性を支える未来への挑戦

2025 **10/6** (Mon)
14:00-18:00

京都大学
国際科学イノベーション棟
HORIBA ホール (ハイブリッド)

参加費
無料

プログラム

第1部

- 14:05-14:15 趣旨説明 | 北川進
- 14:15-14:35 若手研究者による＜COMON＞への示唆 | 宇治梓紗
- 14:35-14:55 オランダでの評価改革最前線と＜COMON＞への期待 | レオニー・ファン・ドルーゲ
- 14:55-15:15 国際的な研究評価改革動向と＜COMON＞ | デヴィッド・ブッツ・ペダーセン
- 15:15-15:30 国際的動向に見る日本の大学改革と研究評価 | 林隆之

第2部

- 15:45-16:45 登壇者を囲む3つのラウンドテーブル |
ファシリテーター 田中功、松浦健二、木庭啓介

第3部

- 17:00-17:45 パネルディスカッション | モデレーター 田中功
- 17:45-17:55 総括 | 松浦健二

対象 大学関係者・高等教育関係者

言語 日本語・英語 (同時通訳付き)

定員 120名 (現地)

参加申込期限 2025年10月3日 (金) 17:00
申込多数の場合は早めに締め切る可能性があります

参加登録 <https://forms.gle/p7CDNYU9Aba4ZP438> ▶



京都大学
KYOTO UNIVERSITY



京都大学
総合研究推進本部

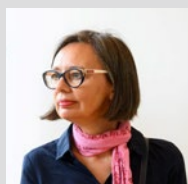


L-INSIGHT

京都大学では、論文数や引用数に依拠した従来の研究評価の限界を見据え、研究者の創造性と学術の持続的発展を支える新たな評価のあり方を探ってきました。その学びを踏まえ、京都大学の伝統である「自由の学風」を体現する研究評価システム＜COMON＞を設計しました。それ以降、教職員の要望を踏まえ勉強会・説明会を開催し、学内各キャンパスにおいて10回を超える意見交換を行ってきました。

本シンポジウムは、こうした学内での意見交換で得られた

観点を踏まえ、海外の研究評価最先端の事例を参照しつつ、今後に向けた課題を確認する機会となります。＜COMON＞の理念と仕組みを改めて紹介するとともに、研究者自らの責任と協働に基づく研究文化の共創の可能性について議論を深めます。単なる成果の管理や統制にとどまらず、自由で多様な研究を促進し、学術の伝統を継承・発展させる評価の姿とは何か。大学が目指すビジョンの実現に向け、研究文化をともに創り未来に継承・発展させるための実践を考える場とします。



レオニー・ファン・ドルーゲ

Leonie van Drooge

オランダ保健研究開発機構（ZonMw）上級政策官

アムステルダム大学・マンチェスター大学で化学と科学論を専攻後、ライデン大学科学技術研究センター（CWTS）およびラテナウ研究所で研究員・コンサルタントを歴任。現在はオランダ保健研究開発機構（ZonMw）の上級政策官として研究評価と社会的インパクト評価に携わり、オランダの研究評価プロトコル（SEP）にも10年以上関与している。



デイヴィッド・ブッツ・ペダーセン

David Budtz Pedersen

デンマーク・オールボー大学 教授

デンマークデンマーク・オールボー大学にて科学コミュニケーションおよびインパクト研究の教授を務め、先端人文社会科学センター（FRONTIER Center for Advanced SSH）のディレクターを兼任。彼の研究は、科学技術のマネジメント、コミュニケーション、評価に焦点を当てている。欧州委員会、デンマーク高等教育・科学省、ノルウェー研究評議会の顧問を常任で務める。オープンで責任ある協働的な研究に特に関心を寄せる。



林 隆之

Takayuki Hayashi

政策研究大学院大学 教授

政策研究大学院大学 政策研究科 教授。専門は大学評価、科学技術政策論、科学計量学。大学評価・学位授与機構評価研究部教授を経て2018年より現職。現在、内閣府 総合科学技術・イノベーション会議 基本計画専門調査会及び同評価専門調査会 委員、日本学術会議「我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会」委員長、同科学者委員会研究評価分科会幹事、文部科学省政策評価に関する有識者会議委員などを務める。



宇治 梓紗

Azusa Uji

京都大学 大学院法学研究科 准教授

2012年京都大学法学部卒業、2012年京都大学大学院法学研究科修士課程修了、2018年同大学院博士後期課程修了後、同研究科助教、講師を経て2021年11月より現職。その間、ハーバード大学、チューリッヒ工科大学にて在外研究。2019年に松下正治記念学術賞受賞。

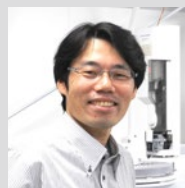


木庭 啓介

Keisuke Koba

京都大学 生態学研究センター長

京大生態学研究センター教授。専門分野は水圏生命科学・水域物質循環、特に生態系における生物と環境の相互作用を研究テーマとする。京都大学大学院情報学研究科社会情報学専攻助手、The Ecosystems Center, Marine Biological Laboratory 客員研究員、東京農工大学大学院農学研究科准教授を経て、2016年京大生態学研究センター教授、2025年より同センター長。



松浦 健二

Kenji Matsuura

京都大学副プロボスト、
研究推進担当理事補

京都大学大学院農学研究科教授、専門は昆虫生態学。2011年日本学術振興会賞、日本学士院学術奨励賞受賞。ハーバード大学進化生物学分野（OEB）博士研究員、岡山大学大学院環境学研究科助教、准教授を経て、2012年から現職。2022年4月より京都大学理事補〔企画・調整担当理事、研究推進担当理事〕、2024年10月より副プロボスト。



田中 功

Isao Tanaka

京都大学 研究推進担当理事補、総合研究推進本部 副本部長

京都大学理事補〔研究推進担当理事〕・特定教授・名誉教授、京都大学総合研究推進本部副本部長。専門は無機・金属材料科学。ドイツ政府よりフィリップ・フランツ・フォン・ジーボルト賞、服部報公会より報公賞。大阪大学産業科学研究所、京都大学大学院工学研究科教授などを歴任後、2025年4月より現職。



北川 進

Susumu Kitagawa

京都大学 研究推進担当理事、
総合研究推進本部長

工学博士。専門は錯体化学。京都大学大学院工学研究科博士課程修了。近畿大学理工学部助手、講師、助教授、東京都立大学理学部教授などを経て、1998年より京都大学大学院工学研究科教授。2007年より京都大学物質－細胞統合システム拠点教授、2013-2023年同拠点長。2017年京都大学名誉教授。2017年より高等研究院特別教授、2024年より現職。